

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270102629		
法人名	有限会社 ヘルパーステーションぬくもりの家		
事業所名	グループホーム ぬくもりの家		
所在地	長崎県長崎市大手2丁目1番63号		
自己評価作成日	平成30年7月1日	評価結果市町村受理日	平成30年8月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1
訪問調査日	平成30年8月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

建物は、古い木造の家ですが、家庭的なぬくもりのある空間を提供しています。ホーム全体が広くないので利用者の方との距離が近く一人ひとりに寄り添いながら、身体面、精神面を考慮し、言動や行動、表情など良く観察した対応や支援を行うことが出来ます。ご家族や地域の方々の温かな支えと繋がりを大切に日々安心して過ごして頂けるように心掛けています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

新しい管理者が就任して1年が経過し、全職員が同じ目標に向かうチームとして入居者に関する姿勢が窺える。ホームでは職員全員参加のミーティングを定期的に設け、管理者が職員それぞれに意見を求めるなど意見を出しやすよう配慮されている。ホームでは入居者の元同僚など入居者本人にとって馴染みのある方の来訪があり、居室やリビングで談話できるよう配慮しその方との人間関係が途切れないよう支援されている。年に1回は家族会を開催し、家族からの意見を反映するよう努めている。個人記録に入居者から聴きとった要望等を記録に残し、適宜色分けして分かりやすく工夫し職員と共有できるしくみを構築している。運営推進会議等を通じて地域の独居老人の情報を入手し互いに助け合う関係を築くよう努められている。また、自治会に加入してホーム駐車場を地域の方に利用を提供したり、近隣商店(ケーキ店・米穀店等)で購買するなど、地域住民と交流を深めている様子が窺える。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

ユニット名 めくもりの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員がいつも目に触れる場所に掲示し、常に意識しながら共有し実践している。理念の重要性を実感しながらチームワークを大切にしている。	理念は、職員の目が届くようフロア内に掲示されている。月に1回ミーティングを行い、理念を意識した介護を実践できるよう努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ご近所との交流が少しずつ増え、季節の野菜やお花を頂いたりしている。又ホームの駐車場を利用して頂いたりと交流を深めたり、お互い助け合いながら信頼関係を深めている。	運営推進会議等を通じて地域の独居老人の情報を入手し互いに助け合う関係を築くよう努められており、自治会に加入しホーム駐車場の利用のほか近隣商店(ケーキ店・米穀店等)で購買するなど、地域住民と交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域との交流を始め、運営推進会議等を通じ認知症高齢者の方々の理解や支援を頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に1回会議を実施し、ホームの状況、活動内容の報告をし意見交換をしている。地域の実情、情報も分かり、防災、防犯等に活かしている。	ホームでは定期的に運営推進会議が開催されており、自治会長、行政担当者、民生員、地域代表の方等が出席されている。ホームの活動や行事報告のほか防犯や防災等に関しても意見が交わされており、ホームの運営に活かすよう努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	情報や資料は、回覧し情報を共有し必要に応じては、連絡等を行い相談、確認をしている。運営推進会議には、市役所の方も参加して頂き、情報交換を行い、助言等も頂いている。	運営推進会議には行政担当者が参加し、運営上の課題のほか相談や情報交換を通じて協力関係を築くよう努めている。近隣の不審者情報等についても運営推進会議や行政等からの情報を得て連携し対応されている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年間の研修やホーム内の研修等で勉強を通じ、学び、理解出来るように取り組んでいる。身体拘束をしないケアを心掛けている。	訪問調査時、身体拘束が必要な入居者はいない。ホームでは玄関、居室への施錠状況もなく、身体拘束ゼロに努め、書類も整備されている。職員は身体拘束や虐待防止に関する内外の研修会等に参加する機会がある。夜間のみセンサー使用の入居者がいるが、家族にも説明し、本人の行動制限にならないよう努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年間の研修や勉強会等で、虐待防止について学ぶ事が出来るように取り組んでいる。日頃の対応で困ったことや、不安があった時は会議等で話し合いを行い検討をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職場内や職場外の勉強会へ参加し学ぶ機会を持ち、必要な時は、活用できるように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、変更、解約の際は、口頭や文章にて説明を行い同意を頂いている。又疑問や要望の確認を行い理解を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族へは、面会の際に近況の報告を行い、何か要望がないか確認するようにしている。その際は職員が共有できるよう申し送りや個人記録に記載している。利用者には日頃の会話の中で思いや要望等を聞き取りを行っている。	年に1回は家族会を開催し、家族からの意見を反映するよう努めている。個人記録に入居者から聴きとった要望等を記録に残し、適宜色分けして分かりやすく工夫し職員と共有できるしくみを構築している。現在、事業所便りの発行を検討されている。	現在、事業所たよりの発行を検討されており、たより等を通じて遠方の家族にも入居者の暮らしの様子が伝わるよう家族との情報共有に繋げていくことを期待する。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議や日常の会話の中で意見、提案など聞き対応し、出来る事から取り組んでいる。職員一人ひとりが、自分の意見や考えを話せるように時間を作っている。	ホームでは職員全員参加のミーティングを定期的に設け、職員それぞれが意見を出しやすくように配慮した工夫が窺える。新しい管理者が就任して1年が経過し、職員が同じ目標に向かうチームとして入居者に関わる姿勢が窺える。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が働きやすい環境を作るよう管理者は、職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員のケアの向上と力量を把握し、研修や勉強会を通じ、意識向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	協議会の参加によりお互いの情報サービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人との面談、家族や利用開始前の担当者から情報を得て、安全、安心して生活して頂けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居申し込みや見学の間より家族の思いや不安など聴き思いに添えるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の状況を確認しながらその方にとって必要なサービスを見極め話し合いながら、検討、対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の中で一人ひとりが出来る事、やりたい事を確認し、毎日役割や生きがいを持って生活できるよう支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会の際や電話連絡して近況を報告し、状況によっては、相談しながら本人にとって何がいいのかを一緒に考え、検討していった。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	馴染みの方や知り合いの方が来られた時は、居室でゆっくり過ごして頂いたり、リビングで皆さんと楽しく談話され過ごされている。又、電話での連絡や家族との電話の際はゆっくりとお話が出来るように支援している。	ホームでは入居者の元同僚など本人にとって馴染みのある方の来訪があり、居室やリビングで談話できるよう配慮しその方の人間関係が途切れないう支援されている。面会時には記録をとり支援に活かすよう努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの性格や状態を考慮し、利用者同士の関係性を大切にしている。全員で楽しめるレクレーション等を考えながら、取り組めるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、ご本人の状態を確認したり、会いに行き様子を伺ってる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常に声掛けを行い、会話の中での気づき、又ご家族からの情報で、意向、希望に添えるように努めている。	ホームではアセスメントシート、介護計画書等に入居者の思いや暮らしへの意向を反映し、個人記録、申し送りノートで職員間で共有し、意向の把握が難しい方には表情やしぐさで意向を汲み取り支援に活かすよう努めている。	ホームではヒヤリハットに取組み、事故防止に取組まれている。ヒヤリハット報告書には全職員が共有したことが分かるようサイン等を残しておくことが望ましい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人から汲み取れるところは大事にし、関係機関から情報が貰えるようお願いしている。入居後もその人らしく生活できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの一日の流れに添って、その日の体調やペースに合わせて過ごして頂いてる。日々の様子や状態は記録に残し、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族へホームでの暮らしの要望を確認し、ホーム全体で話し合い介護計画を作成している。状態変化があれば、そのつど話し合っている。	計画作成担当者が定期的に本人や家族からの要望等を踏まえ、職員からの情報やケア会議等で検討し、介護計画に反映している。帳票や記録類については見直しがなされ、最新版のものが使用されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員全員が個別に記録し認識している。申し送りノートを含め情報の共有を図り、介護計画の見直しを実践している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状態と家族の要望に対して、他機関と連携を行い支援できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事に参加したり消防訓練には、地域の方に参加して頂き交流を図っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人が信頼しているかかりつけ医の受診が出来るように家族と協力しながら適切な医療を受けられるように支援している。又、毎月1回往診時に主治医へ状態を伝え、安心して医療を受けて頂けるように努めている。	ホームでは協力医による月1回の往診が実施されている。歯科医の往診も実施されている。家族と協力しながら適切な医療受診につなげ、受診時にはADL等状況書を活用し本人の状況を医師へ伝えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員でもある看護師と共に連携を取り看護的な把握も十分行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院での治療が安心して出来るように面会に行き、又家族とも連絡を取り合い、医療機関との情報、報告を受け相談しながら対応している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した時や終末期に向けた方針については、入居された段階で説明を行い、同意を得ている。状態によっては、主治医、家族と相談、話し合いを行い、状態変化や今後の事について共有している。	現在、ホームでは看取り支援は行わない方針であり、入居者が重度化や終末期に至った場合は医療機関や特別養護老人ホーム等で対応となり、その旨は入居時に家族等へ説明している。職員が緊急時に対応できるよう12月にAED講習を受講する計画を立てている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に勉強会を行い、急変時、事故発生時に対応できるようにマニュアルや連絡体制が確認できるようにしている。事故発生後は対応、対策を話し合い再発防止に努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	年に2回の避難訓練と毎月会議時に勉強会を行っている。運営推進会議を利用して地域の方々との協力体制を築いている。	非常時災害時の対応マニュアルを本年4月に整備し、毎月災害対策に関する勉強会を行うと共に、年に2回避難訓練を実施している。訓練後は参加した消防署員、自治会長、民生委員等から講評と反省の言葉を頂き、又、ホームとしてのできた点と改善を記録し、次回に繋げている様子が窺える。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々の生活の中で、人格の尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけを心掛けている。	職員は目上の方であることを意識した言葉づかいに努めている。接遇マナー研修を受講し本人を尊重した対応や態度で支援するよう心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中で本人の思いや希望が自然に出るように声掛けを行い、働きかけをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの一日の日課やペースを把握しながら確認を行い、希望に添えるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝、鏡の前で容姿のチェックをして頂き、出来るところ、出来ない所を職員が判断、相談し支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の楽しみの一つである美味しい物を食べる事ができるように、栄養バランスを考えながら好みの物を取り入れ、食べやすいように提供している。	ホームでは入居者への嗜好調査を行い、好みの物や苦手なものを踏まえて支援されている。入居者は食卓を囲み、職員が手作りした食事を提供されている。食事が楽しみなものになるよう誕生会などの際に特別食も用意されている。	入居期間が経過し、入居者の高齢化や重度化が顕著な傾向が窺えるが、重度化した方であっても食事の際には適宜言葉かけを行い、五感を刺激した支援に繋げていくことを期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを考えて献立を立てている。食事、水分量には注意し、記録する事で状態変化があった場合に変更したりと状態把握に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、毎食後に口腔ケアの実施をしている。個別にあった口腔ケアを行っている。又歯科衛生士の指導や助言を頂きながら、衛生と清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、排泄の確認とチェックのもとトイレでの排泄を支援している。排泄の失敗があっても、安心できる声掛けを心がけている。	ホームでは入居者それぞれの排泄記録を残し、トイレで排泄できるよう声かけや誘導を行っている。外出時にはバリアフリー対応のトイレの位置を確認している。意思表示が困難な方にも表情等から読み取るよう努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝のラジオ体操、個々にあった運動を行い、適度に身体を動かして頂けるように工夫している。食事の内容も気を配り予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人ひとりに合わせ、ゆっくりと入浴ができるように努めている。月曜日から土曜日まで入浴日を設定しているので状態、状況に応じて支援している。	ホームの入浴日は月曜日から土曜日で設定し、本人に合わせてシャワー浴や一般浴の支援がなされている。清潔保持に配慮し入浴拒否がある方にはその方に応じた言葉かけに工夫している。適宜希望により入浴剤や保湿剤等を使用している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりのペースに合わせて休んで頂いている。居室内の温度、湿度に注意しながら、利用者の状態に合わせて対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容、説明等は確認できるようにファイルに綴じていつでも確認できるようにしている。重要な事や変更があった場合は申し送りノートに記載して情報を共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活の中で、本人が出来る事を見つけ出せるように関わりを多く持ち、能力や生活歴を活かして楽しみのある生活が送れるように努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	家族の協力を得ながら外泊、外出をして頂いている。天気の良い日は散歩や日光浴をしたり、気分転換を図っている。	家族の協力を得て、月に1回外泊する方もいる。天候や季節等を考慮し、日光浴や散歩を行っている。ホームでは、現在、外出支援を計画中であり、家族等の協力しながら支援されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人が直接お金を持つことはないが、預り金としてホーム管理している。希望があれば職員が購入したり一緒に出掛けられる時に確認し使えるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望がある時は、必要に応じて電話で話ができるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度、湿度、換気に随時注意を払い環境を整えるように心掛けている。居心地の良い空間づくりに配慮し、四季折々の物が感じられるように工夫している。	時季が夏場に訪問したこともあり、特に温度管理には注意していることが窺えた。朝は窓を開けて換気し、適宜清掃がなされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合ったもの同士近くで過ごしている。又思い思いに自分の部屋へ戻りゆっくり過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には馴染みの物、家族、知人からの贈り物を置き、安心して過ごして頂けるように工夫している。	居室への持込み品は特に制限は設けておらず、本人の馴染みのものや仏壇の持込みも可能である。但し、火器類の持込みは不可である。	屋間に使用しないポータブルトイレについては、本人の使い勝手を考慮すると共に、必要に応じて目隠し又は収納し、居心地よく暮らせる居室の環境づくりを検討することが望まれる。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全を考慮し、物の配置には注意している。出来ないこと分からないことは、言葉かけ等工夫している。		